こうりん

新年あけまして
おめでとうございます
本年もどうぞよろしく
お願い申し上げます

無量寺　住職　堤　俊靖・玉田　行俊・清月子

令和になって初めてのお正月です。

元旦を迎え、本当に新しい時代が来たのだと、気持ちも新たになります。

ここ数年の間に起こった自然災害は私たち人類のみならず、あらゆる生命に大きな試練を突きつけているようです。昨年十二月には首都直下地震の恐怖を体験させてくれるテレ丄番組も放映されました。もし、本当に地震が起これ乚かつてない被害が想定されています。もしかすると国の存亡にかかわる重大事になるでしょう。しかし、一人一人の心構えと備えがあれ乚被害を小さくすることも可能だそうです。試練は乗り越えるためにあるのだそうです。私たちの生命と社会を守るため叡智を結集していく努力が何よりも求められています。

今年が明るく、幸福な年になるよう無量寺は祈りを捧げてまいります。

無量寺 第二十三世 住職 堤 俊靖

檀信徒各位

御忌法要のご案内

天下和順　日月清明　風雨以時　災癘不起…　毎朝のお勤めでよむ「祝聖文」の一節です。天下は平和であり、日と月は清らかに明るく、風と雨も時に応じ程良く、災害も疫病も起きませんように　という意味です。今年こそは大きな災害も起こらず平和な年になるよう願うばかりです。

本年も浄土宗の開祖　法然上人の祥月命日の法要「御忌法要」を、浄土宗久留米門中寺院ご出仕のもとに下記の通り勤めます。ご多忙の処とは存じますが、お繰り合わせご参詣下さいますようご案内申し上げます。

合　掌

令和２年１月上浣

無量寺住職　堤　俊翁　　拝

記

※期　日　　**１月２５日（土）**

午後 1 時よりご回向

午後 2 時より法　話

※布教師　　**鵜飼　秀徳　師**

京都教区　正覚寺　副住職

一般社団法人 良いお寺研究会 代表理事

※ご回向料

普通回向　　１霊　　1,000 円　　以上　ご志納下さい。

※お供え料　　随意ご志納下さい。

本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

僧侶の服相　後編

前回から気になっていた方もいらっしゃるかもしれません。僧侶の世ﾛｰでは**「服装」**ではなく**「服相」**と表現することがあります。**「人相」**などと同様に、その人の内面がその形態に特徴づけられるという考え方です。ですので、テキﾄｰに衣を着て袈裟を着けた僧侶はどこかダラシナﾅ感じの服相になりますが、真剣な思いで衣を着た僧侶は引き締まった服相になる、というわけです。逆に言えﾊﾞ、服相を見ることで僧侶の性格や精神状態が分かるかもしれませんが、**あまり観察しないでいただけると大変助かります。**

◎衣(ころも)の起源

衣とは、袈裟の下に着ている和服のような着物の事です。六世紀の仏ﾌﾞ伝来時に袈裟とともに中国から伝わった着物と言われてますが、元来は右肩・左肩・下半身に分かれた着物で、それを一枚ものに整えたものが現在の僧侶の衣のルーツだそうです。ただ、和服の原型が中国から伝わったのが三世紀頃と言われていますので、中国の服がルーツという意味では、和服も僧衣も似ていて当然なのかもしれません。

※「和服」という呼称は「洋服」に対して明治期に作られた名称。それ以前は単に「着物」と呼ばれていたそうです。

◎衣の現在

現在の僧侶の標準服は**黒衣(こくえ)**。ソデがけっこう長くて、慣れるまではかなり動きにくいです(というか、慣れても動きにくいです)。**黒衣**が非常に動きにくいので、明治期にお坊さんの学生服として**改良服(道衣)**というものが考案されました。**ソデ**や**スソ**が短くて動きやすく、ご自宅での法事に伺う時などによく着るものです(動きやすいとはいえ、慣れないうちは食事中に**ソデ**を味噌汁に浸けてしまうこともありました)。

浄土宗の**改良服**と同様のものを、**浄土真宗**では**「布袍(ふほう)」**と呼ﾊﾞ、例の福井県の違反切符を切られた僧侶が着ていたものもこれです。

◆　◆　◆

我らが福ｾﾞﾝ県の条例によると、運転時の**衣服については特に定めは無く、履物については「げた、スリッパその他運転操作を妨げるおそれのある履物」が禁止**されているとのこと。**僧侶の雪駄はどうなのか**というと、基本的には違反にならないそうです。前述の福井県の僧侶も雪駄を履いていたようですがお咎め無し(福井の条例も履物については福ｾﾞﾝと同じ内容)です。

福井県のﾆｭｰスがあった後、一部の僧侶が僧衣でジｰｸグリングやバク転をする動画を発表しました。目立つ映像で問題提起し「ﾗﾄﾞで考えよう」という意図があったそうですが、題名が**「僧衣でできるもん」**だったことはマズかった。私の感想は「バク転できるのはわかったけど、安全に運転できるかどうかは別なのでは」。私の実感ですと、運転するには雪駄は少し危険な気がします。改良服はまず問題無いとは思うものの、洋服と比ﾍたらやはり少し注意した方が良いでしょう。

今回は、運転時の服相について改めて考えるきっかけとなりました。運転は**僧衣でできる「けど」**、常に自省し注意を怠らないように努めたいものです。

玉田　行俊の道場こ「れ話3

第四回

こんにちは、玉田　行俊です。第二期道場まではお勤めは一日三回(朝・昼・夕)だったのですが、第三期道場では、夕食後にもお勤めがありました。今回はそのお勤めの話を中心に・・・。

◆　◆　◆

◎自索自励(じさくじれい)

浄土宗には「六時礼讃(ろくじらいさん)」という、念仏三昧行があります。一日を六つの時間に分け、読経、念仏、礼拝を行うもので、天台声明を基にした美しい旋律が特徴です。第三期道場では、この六時礼讃を重点的に練習するのですが、これが唱えるだけならまだしも、唱えながら歩いたり、礼拝したり、華(を模した紙)を散らしたりと、威『(いぎ=振り付け)が伴うものですから現場は大混乱。勿論、その動きのひとつひとつは決まったタ「ミングで決まった動きをしなけれ」なりません。全員で息を合わせるのは至難の業です。

若者でさえ混乱する内容なので、高齢の方はそう簡単に覚えられるハズもなく、動きがずれたり、間違ったりする頻度がどうしても高くなってしまいますが、道場では年齢は関係なく、やることはやらね」なりません。しかし、指導員も『ではないので年齢等も考慮して少し大目に見たり、根気強く指導したり工夫します。

ある時、夕食後のお勤め中に、向こうの方から個人指導の声が聞こえてきました。七十人が声を出す中での指導ですので、指導員はちゃんと伝わるように叫んで指導します。いつもの指導だな、と思っていると声がだんだん怒号のようになってきました。ラド、その声が気になりつつも、お経本から目を離せませんし、威『(振り付け)も間違える訳にいかないので何が起こっているか見ることができません。途切れ途切れに聞こえた内容は次のようなものでした。

なんで皆と違う動き…るんですかオでき…いなら休憩時間に練習…さいよ!練…したって?じゃあなんで…きないのオ本当に…たんですかオ本当は練…してないオ

なんで嘘つくんだ!あなたお檀家さんにもそうやって嘘つく気ですか!そんな人は僧侶にならないで下さい!迷惑です!今すぐやりなさい!

指導員は休憩時間も道場生の動きをいつも観察し何かメモをしていました。どうやら、休憩時間に練習していないことを指導員は知っていたようなのです。

叱られていたのは今回の最高齢七十歳の尼僧さんで、非常に気が強く、指導員にかなり反発し、嘘までついたのでこのようなことに…。体罰はご法度なので、指導員は扇子で机をバンバン叩きながら怒り狂い、その扇子は「ッキリと折れてしまいました。お勤めが終わった後、その七十歳の方は他の道場生に「**あんなに怒らんでもええやんなぁ?**」と呟いていました。

一方、「六十歳を過ぎて、なかなか内容を覚えられないから」と、前もってノー」十数冊分の練習をしてから道場に来たという方もおりました。それほど準備しても大変そうではありましたが、その方はやはり努力の片鱗が随所に見えたので、あまり厳しく指導されなかったそうです。

年齢や生まれ持った能力は自分ではどうすることもできませんが、道場では自分ができる範囲の努力をするのか、しないのかが問われます。

今回の副題の「**自索自励**」は六時礼讃の一節ですが、意味は「**自ら努め励むこと**」。以前から指導員に何度も言われていた言葉でもあり、修行をする上で大切な心構えです。

え、私ですか?いや、「**自画自賛**」なら結構得意なんですが…。

つづく